



未来を夢見て Season 2

2021/9/14 No. 99

海人 (UMIN CHU) 登場

9月14日(火)。今週に入って体育見学会に向けて学年で体育に取り組む様子が今まで以上に見られるようになりました。写真は6年生の「よさこい」、子供たちと一緒に先生方も小気味よく元気に踊っています。また、真ん中の写真は4年生。6時間目の授業でしたが、全体指導の千葉信哉先生の指示に従って、きびきび行動する姿が印象的でした。



さて、13日(月)には初任の阿部桃子先生が3年3組で研究授業を行いました。教科は国語。単元名は「サーカスのライオン」。子供たちの学習に取り組む様子がとても立派で、先生の話をしっかり聞き、ノートにも先生の板書の速さと同じスピードで書く姿に日常の学習指導がいき届いていると感じました。放課後の検討会では、参観した先生方からたくさん助言をいただくことができました。1つ1つがこれからの桃子先生の財産になります。初任の先生方は毎週授業研修があって大変ですが、とにかく最後までやり終えることが目標です。息切れしないように続けていくことを願うばかりです。



そして、14日(火)の5時間目には6年2組、青砥先生の学級で「海のいのち」の授業を見せていただきました。6年生の子供たちの教材文に向かい合う姿勢は流石で、しんとした雰囲気の中で、しっかり考えている様子が印象的でした。

さて、先週から国語の授業を連続して参加させていただいて、個人的な意見ですが、もう少し「音読・朗読」を取り入れてもよいか、というのが私の感想です。写真は「音読・朗読による国語教室」(教育出版 竹田幸正著)。その中に音読・朗読のよさとして、①授業が活性化する②文章に対して愛着がわく③文字や語句を正確に身に付ける④言語感覚を養う⑤文章を読み深める、とそのメリットが紹介されています。もちろんコロナ禍で活動内容に制限があるのは承知の上ですが、表現として朗読する力をもっと育てたい、というのが私の考えです。ところで、6年2組で授業を参観していると、どうしても右の写真のTシャツ(海人 UMIN CHU)に目がいつてしまいました。流石某先生。6年生の子供たちが海の男のイメージを豊かにもつことができるように、この日に合わせてこのTシャツを選んでくださったこと、と思います。(文責：手代木)

